

区の拠点の1つとして有効に活用し活性化をしていこうと考えているのか。

永松区政推進課長：稼働率等の懸念があるが、売上を運営費に充てるという条件で運営事業者を公募しているため、まずはそこから始めていただくという形の予算編成になっている。来年度以降については、事業者と十分調整し、今後検討していく。

興石議員：今年度は、これまで使用していた人のニーズを丁寧に把握し、調整・整理する1年になると思うが、来年度以降、赤字を出したまま事業者の方に継続してもらうのは厳しいと思う。既存の枠組みの中で同じことを繰り返しても赤字の状態は解消されないと思うので、来年度は大きく変えていくことを前提に、この1年間はデータ収集や事業者のニーズを把握しながら活気づけていただきたい。これは要望です。

タッチーくんの魅力発信事業について、先日、(株)サンリオの方と話をする機会があり、オリジナルキャラクターであるキティちゃんやキキララを、ドラえもんやペコちゃんとコラボレーションさせるなど、ユニークな活動をいろいろと行っている。栄区は以前、ブランド力をもつ歌手のMISIAさんとタイアップをし、MISIAの森プロジェクトという事業を実施していた経験もあるので、プロの力を借りてもう少しプロモーションに力を入れてもらいたい。

永松区政推進課長：昨年度は、ゆるキャラグランプリ等をとおして、区外への発信も行った。今後も区外への発信というのは課題だと思っているので、相談させていただきたい。

興石議員：企業交流事業について、市民局が管理している市民活動支援センターが新市庁舎内に移転することに伴い、現在実施している貸館制度は廃止するだけでなく、個別支援から団体支援への強化にシフトすると聞いている。今後、スタートアップしたいと思っている個人の活動を支えるのは、各区の区民活動センターということだが、そのような話や方向性は聞いているか。

根本地域振興課長：初めて聞いた。

興石議員：市民活動におけるリーダー養成のため、「栄区リーダーズカレッジ」を実施していくのであれば、市民局がそのような支援

の方向性でも何とかかなると思う。

井上総務課長：「栄区リーダーズカレッジ」は人材育成研修事業で、区内で活躍する企業や地域の方を講師としてお招きしてお話を伺うという、職員を対象とした研修となっている。

興石議員：個人的な活動を支える枠組みが全市的に変わり、これから新しい目線で何かをしたいと立ち上がってくる人たちの受け皿として区役所の役割が大きくなるので、その点を強化するという視点が必要だと思う。実際には来年度の話になるが、栄区の区民活動センターも今後移転するので、少し考えてほしい。

根本地域振興課長：来年度に向けて、進めていく。

興石議員：SAKAEヤングフェスティバル事業の予算増額の理由は何か。

根本地域振興課長：会場設営費の増によるもの。

興石議員：会場設営はどこに委託しているのか。

根本地域振興課長：昨年度は（株）キョウエイに委託している。

興石議員：未来へ引継ぐ“栄の歴史・文化”事業の予算増額の理由は何か。

根本地域振興課長：30年度から歴史の研究家の方たちと一緒に地域に向き、主に、豊田地区と笠間地区で石仏や神社、お寺などの史跡の調査を実施している。今年度は残りの5地区へ広げて実施する予定のため、その予算を計上している。また、まだ案の段階ではあるが、地域で受け継がれている文化・芸能を広く区民に周知できるように、区民まつりのステージ等で披露する場を設けたいと考えている。

興石議員：セーフコミュニティの取組推進について、傷害サーベイランス分科会でデータの分析を強化するということだが、セーフコミュニティの要はこれだと思う。第三者的な視点やデータ収集が前提となるが、前年度と比較して予算減額になっているのは、昨年度の再認証取得に係る経費分ということか。

永松区政推進課長：そのとおり。

興石議員：データの活用は、栄区予算の考え方の区政運営の姿勢にも書いてあるが、難しい面もあると思う。長年やってきたことが単なる市民活動で終わらないようにデータの分析を強化して

ほしい。

永松区政推進課長：傷害サーベイランス分科会は、今月開催予定のため、改めてご案内を皆さまにお送りする。

興石議員：セーフコミュニティ児童虐待予防対策分科会について、できるだけ多感な時期に命に触れ合うことは重要とも言われているので、中学生の赤ちゃんふれあい体験はできるだけ多くの学校で実施していただきたい。夏休みを利用してということだが、何校で実施しているのか。

佐藤こども家庭支援課長：

28年度以降、区内の全中学校に依頼し、毎年2校が実施している。4校が未実施のため、拡大できるように進めていく。中学校側の事情で夏休みでの実施としているが、できるだけ中学校1年生の年齢から実施できるように学校と調整していく。

興石議員：小学生は対象にしていないのか。

佐藤こども家庭支援課長：

小学生はまだ対象としていないが、今後の検討課題だと思っている。

興石議員：将来的に虐待を減らしていかなければならない。実施する対象年齢について、人の成長過程など、専門家のデータや裏付けがあると、学校や保護者の賛同も得られやすいと思う。

佐藤こども家庭支援課長：

思春期もしくは第二次性徴期の子どもたちにターゲットを絞って実施することも大事だと言われているので、各学校に配置されている児童支援専任教諭や養護教諭の先生等と検討していきたい。

興石議員：地域福祉保健計画について、民生委員自身が活動のねらいを設定・検証し、次の対応をレポートにまとめて提出する義務があり、策定されるたびに民生委員の負担が増えていると聞いたが、どのような状況か。

林福祉保健課長：民生委員には地域での活動に参加していただいているので、活動が活発になればいろいろと負担が増える部分もあると思うが、行政からレポートの提出をお願いするといったことは行っていない。

長谷川議員：タッチーくんとのコラボに関する輿石議員の意見に賛同するが、使用料については、特に負担のないかたちで相乗効果が見込めるよう、発展につなげてほしい。

商店街にぎわい創生事業について、昨年度に作成された商店街マップはとても見やすく、いいものができあがったと思うが、商店街は本当に過疎化が進んでいるため、そこで実施したイベントが一時的なものではなく、起爆剤となり、集客につながるような導線になるといいと思う。予算減額の50万円は、昨年度作成した商店街マップの金額分だと思うが、地域を活性化するために、イベントや朝市等ということだけでなく、そこを通ると何かが先にあるとか、絶対にそこを通らなければならないといったような街をつくっていただきたい。これにより、新たな店舗が出店できるだけでなく、今ある店舗の売上が更に向上するような流れを引き続き作ってほしい。これは意見です。

栄区ならではのおもてなし推進事業～2020年に向けて～については、外国人に向けた、栄区の周知、集客が目的ということでしょうか。栄区に外国人を呼び込むとすると、どのような受け皿があるのか。

根本課長：30年度にどのようにすれば外国人を呼び込むことができるかということをご委託して検討したが、栄区として外国人を呼び込むというのは少し難しいという結論が出た。そこで、区内在住の外国人を対象に、栄区文化協会等とともに、本郷ふじやま公園での古民家見学や茶道体験等、日本文化体験のおもてなしプログラムの実施や小学校での給食体験等を行った。今年度も引き続き、外国人を呼び込むということではなく、栄区文化協会等の区内で活動する団体の力を活かし、お越しになられた外国人に日本の文化に触れてもらうようなおもてなしをしていくことを目的としている。また、東京2020オリンピックパラリンピック大会への機運醸成を高めるというところにも重点を置いて実施していく。

長谷川議員：何かいいアイデアがあって、それをうまくSNS等で世界に発信できるとおもしろいと思う。

セーフコミュニティの予算で変更になったところを教えてほ

しい。また、セーフコミュニティ子ども安全対策分科会について、予算増額の理由は何か。

永松区政推進課長：まず、セーフコミュニティの取組推進及びセーフコミュニティのプロモーションについては、昨年度の再認証取得に係る経費分を減額しており、各分科会の経費には影響がないと考えている。また、セーフコミュニティプロモーションの減額については、今年度開催するセーフコミュニティフォーラムもプロモーションの1つとなるため、その経費とあわせると、プロモーションに係る予算は昨年度とほぼ変わっていない。

根本地域振興課長：セーフコミュニティスポーツ安全対策分科会については、専門家を交えた新規取組内容の検討を今年度新たに行うため、予算増額となっている。

長谷川議員：これは毎年継続して実施するのか。

根本地域振興課長：今年度に限り実施する。

大谷地学校連携・子ども担当課長：

セーフコミュニティ子ども安全対策分科会については、KYT危険予知トレーニングの教材の購入等のため、予算を拡充している。また、これまでは小学生のみを対象としていたが、未就学児にも拡大して実施する。

長谷川議員：国土交通省が全国で約3,000ある限界集落の対応を検討するため、4つのまちをモデル地域として選び、その中に庄戸が入っているということを知ったが、何か聞いているか。

永松区政推進課長：国から地域にご相談があったという話は聞いているが、まだ、そこは決定していないと聞いている。

長谷川議員：国の方から来たということか。

永松区政推進課長：そのとおり。

長谷川議員：区民意識調査について、この結果をもとに、区民生活マップが作成されるのか。

永松区政推進課長：区民生活マップと区民意識調査は別のものと考えている。両方、隔年でやっているため、更新するという形になるが、区民意識調査は区政運営の基礎データとして活用できるような設問を設けて、今後の施策に反映していきたい。

大桑議員：前回の調査結果を見ればどういったものかわかると思う。

永松区政推進課長：最新の調査結果を後ほどお渡しする。

大桑議員：養育者向け情報発信について、子育てマップと父子手帳は、作成した部数だけ年間で配っているのか。それとも、多少余りつつも追加で作成しているのか。

佐藤こども家庭支援課長：

多少余りつつ追加をしている。

大桑議員：出生数は減少傾向だが、両親教室への影響はどうか。

佐藤こども家庭支援課長：

両親教室の開催回数を3回から4回に変更した。また、土曜日に開催していることもあって、父親も参加しやすくなっており、これまでと変わらず、子育てマップや父子手帳などを活用しながら実施している。

大桑議員：さかえの野菜めしあがれ！について、冊子は年間で3,000部配布しているのか。

林福祉保健課長：毎年増刷して、なるべく多くの方の手に渡るようにしている。

大桑議員：反響はあったか。

林福祉保健課長：この冊子に載っているさかえの野菜を使ったレシピをクックパッドのHPに載せている。それに対して反響があり、人気メニューもあるので、活用いただいていると思う。

大桑議員：再チャレンジ応援事業について、年6回程度研修を実施するということだが、参加人数や就職・面接につながっている人は何人いるのか。また、就職後の状況を経年で追っているのか。

村山生活支援課長：30年度は8回実施し31の方が参加し、4の方が就労に結びついた。2人は途中で辞めてしまったが、再支援を行っている。29年度は26の方が参加し、10人が就労したが、体調不良等で辞めてしまった方もいる。ただ、再支援ということができるので、また新たなところに向けて支援している。

大桑議員：再支援をしているということは、しっかりフォローしているということか。

村山生活支援課長：そのとおり。

大桑議員：これは栄区独自のものか。経済局でも支援は行っているの

か。

村山生活支援課長：18区にジョブスポットというハローワークの職員が常駐している施設が設置されているおり、ハローワークまで行かなくても、生活困窮者や生活保護受給者が相談できる体制が整っている。

大桑議員：先日、川崎市で痛ましい事件があったが、それ以降、栄区として通学等の際に何か対応したことがあるか。

根本地域振興課長：あの事件以降、特に防犯として何かしたということはない。

大桑議員：あの事件だけみるとなかなか防ぎづらいことだが、事件を起こさせないために芽を摘むというのが、セーフコミュニティにつながると思うので、そういった視点をもって今後の分科会等で話し合ってもらいたい。

読書活動推進事業について、読書活動推進目標ができて以降、小学生への貸出冊数は増えているとは聞いているが、栄区としてそのようなことがわかるデータはあるか。

松田読書活動推進担当課長：

学校向けの貸出本の総数はデータとしてあるので、後日、提供する。

大桑議員：読書イベントの来場者数が増えているとか、図書館の貸出冊数が増えているというデータはあるか。

松田読書活動推進担当課長：

図書館の貸出冊数とイベントとの相関関係は分析できていない。

大桑議員：居場所づくり推進事業について、収支の状況を見ながら今後の実施について検討するのか、それとも、赤字でも数年間は実施するのか、区としての方針を教えてください。

永松区政推進課長：まずはやってみなければわからないというところはある。カフェスペースやギャラリースペースを以前から利用している方もいるので、オープンまでに調整する必要がある。どのような形であれば続けることができるのかということや事業者と利用者の方と調整をしながら検討していきたいと思っているので、今の時点で、数年、例えば5年やりますというようには断言できない。

大桑議員：今年度については、基本的には売上だけで運営してもらうのか。

永松区政推進課長：そのつもり。ただ、冷暖房等について事業者からお話をいただいているので、そこは行政で対応し、オープンできるように調整しているところ。

大桑議員：区局連携事業の「街づくりと道路整備を契機とした栄区南東部地域交通アクセス改善事業」について、これは上郷公田線や南線のことを言っているのか。

永松区政推進課長：区局連携事業については、上郷公田線整備の進ちよくにあわせて、バスに関してどのような需要があるのか、どのようなルートがいいのか等、バス路線の需要アンケートを実施するための予算になっている。

興石議員：市立保育園の菜園再整備事業について、これはこども青少年局の予算で実施するような事業ではないのか。

大谷地学校連携・こども担当課長：

栄区独自の取組として、キューロを活用したり、レイアウトを変える等、再整備する。

興石議員：事業としてはいいと思うが、できれば区づくり推進費の予算ではなく、こども青少年局の予算で実施してもらったほうがいいと思うが、区長はどのように考えているのか。

星崎区長：区が独自で保育園の意見を聞きながら自由に実施するためには、区づくり推進費で実施する方がいいという考えもある。

興石議員：区が独自で実施するのであれば、市立保育園4園の個性として園の宣伝材料になるような視点で事業を実施してほしい。次世代交流ステーションについて、管理運営費はそれぞれの施設を所管している局の予算で実施するものではないのか。

角田高齢・障害支援課長：

この施設には4つの拠点が入っているが、家賃や光熱水費はそれぞれの施設の運営法人が負担しており、歳入として受け入れている。実際には、建物の保守に係る経費を区が負担している。

興石議員：維持管理等のランニングコストについては、区づくり推進費と異なる予算で負担していくという考えが定着してきていると思うが、どうか。

根本地域振興課長：次世代交流ステーションの土地及び建物は水道局が所管しているが、水道局と栄区の取り決めにより、家賃及び光熱水費等は栄区が立替えるかたちで、一括して水道局に支払いをしている。約1千万円支出しているが、その後、各運営法人から歳入として約770万円受け入れているため、残りの約230万円が実際の施設の維持管理費になる。

興石議員：水道局の所管のまま賃借しているのか。

根本課長：そのとおり。

興石議員：パラフェスタ♥さかえについて、昨年度はegaoプロジェクトをベースにパラスポーツとタイアップして実施したが、地域で起こってきたそもそもの流れと少し違和感があると思っているので、運営方針について今後やり取りさせてほしい。

角田高齢・障害支援課長：

昨年度、一昨年度と一緒に実施していたegaoプロジェクトと、今年度は一緒にやらないという方向についてか。

興石議員：そのとおり。いいとか悪いとかではなく、区民のためのイベントということを踏まえて、少し方向性を整理したほうがいいと思っているので、また詳細を教えてください。

大桑議員：同様にこちらにも情報提供いただくようお願いしたい。

興石議員：一昨年、横浜市がシングルマザーの自立を目指し、(一財)日本シングルマザー支援協会と連携協定を締結したが、事業が上手くいくための要は現場で対峙したときだと思う。
栄区でシングルマザーに対して、支援協会に紹介した事例はあるか。

佐藤こども家庭支援課長：

ひとり親の方の児童扶養手当という手当の給付事務をこども家庭支援課の窓口で行っているため、対象者が窓口に来た場合は、その手当給付を通じて個別の相談には乗っているが、(一財)シングルマザー支援協会への相談や支援を受けたという事例は区役所には報告されていない。

興石議員：民間の活力を使って支援するという、今までの行政の発想とは違ってきていることを現場の担当者がしっかりと認識をしないと、支援が進まない。窓口に来た人に、(一財)シングルマザー支援協会を紹介できるような窓口の担当者向けのツ

	<p>ルやパンフレットはあるのか。</p> <p>佐藤こども家庭支援課長：</p> <p>現状ではないため、同協会と連携協定を結んでいるこども青少年局のホームページ等で紹介できるか要望することになる。</p> <p>興石議員：（一財）シングルマザー支援協会が用意している資料などを活用する方がいいと思うので、こども青少年局へ依頼をして用意してほしい。これは要望です。</p> <p>議事録は座長一任。了承。</p>
備 考	